

# 九州玄海 第一回口頭弁論開く

6月15日、県弁護士会館に弁護士20人余りと提訴者300人ほどが参集。法廷内には、特別傍聴券許可者20名と地裁前で抽選により傍聴を許された20名が入廷。残りの参加者400人あまりは近くのエスプラッツホールで同時開催された模擬法廷会場に入り、口頭弁論4人の主張原稿発表の代読に傾聴。4252名が提訴した、最大規模の原発裁判がこうして開始された。

法廷では、原告側の4名による意見陳述が行われた。最初に、元佐賀大学学長の長谷川照氏が原子物理学者としての立場から原子炉の稼働停止、国のエネルギー政策の転換を強く求める主張を、次に玄海町に生まれ、住職としてまた中学校の教師として、47年間にわたって原発反対を主張し続けてこられた仲秋喜道氏より、生まれ故郷の自然が破壊され、環境が破壊され、まき散らされた膨大な原発カネによって、地域の人々や議会の倫理が崩されていった様を生々しく陳述。一刻も早く原発を廃止

旨の発言を信じていたが、

メルトダウンの情報が流れるにいたり、福岡に移転を決意。はつきりしたことは「国は国民を救ってはくれないのだ」という思い。まだ福島には、移転すること

して欲しいと訴えました。続いて、4人の子どもをもつ母親の立場から江下千恵さんが、福島原発事故以後、いかに日々不安感にさらされ続けているか、取り返しのつかない被害をもたらす原発の廃止こそ今一番大切だと、切々と訴えられました。最後に福島郡山市で弁護士をしていた齊藤利幸氏。はじめは枝野官房長官の「原子炉は安全」の趣意

## 緊迫するTPP参加に反対を 日本共産党、各団体に申し入れ

TPP参加問題が緊迫しています。玄葉外相は6月5日の日本経団連総会で、原発再稼働や消費税増税の決着後にTPP問題を判断すると述べています。

経団連も6月11日、「一刻も早い交渉参加の英断を求める」という提言を発表。「このままでは日本は置き去りに」など交渉参加を促すマスメディアのキャンペーンも強まっています。野田内閣はTPP問題は内閣の専権事項で与党や国会の承認を得る必要はないとしており、9月のAPPEC首

脳会議前にも交渉参加を表明するかもしれません。

今でさえも先行ききびしい農林漁業が、これで息の根を止められかねません。医療も金融もあらゆる分野で米国流の弱肉強食のルールが押し付けられようとしています。

日本共産党北部地区委員会（石川悟委員長）は、TPP参加反対をかかげるすべての団体や個人と一緒に反対運動を盛り上げていきましょうと呼びかけ、JAなど各団体に申し入れをおこなっています。

## 炭坑の町だった吉井町の昔を聴く

松原さん（80代・男性）

昭和30年代にはいると、戦後の復興もだいぶん進んで電化製品が増えてきましたね。テレビなんかは近所の家には何台かしかなかったけれども、炊飯器やこたつ、電気ポットも家庭に入ってきてました。私の炭坑は潜竜なんです、吉井町にあった炭坑のことはあまりわからないんですが、当時は福井炭坑、宏安炭坑、御橋炭坑、草ノ尾炭坑、前岳炭坑などの名前は記憶にありますね。当時は、労働争議が激しくなっていた頃で、潜竜炭坑でスト破りの動きがあったことが強く頭にあります。炭労、日本炭

鉱労働組合のことですけれど、ここからの指示で、今の松浦市にある新北松炭鉱闘争の労働争議の時に支援に行ったことはいいい思い出

吉井にあったのは福井炭坑、宏安炭坑、御橋炭坑、草ノ尾炭坑、前岳炭坑など

## 昭和30年代、吉井の街は活気があり賑やかだった

です。

戦後の日本社会が30年代に入り、落ち着いてきていたせいか、仕事だけじゃなくて、吉井の街はいつも賑やかで、盆踊り、炭鉱運動会、ソフトボール大会、いくつもあった炭鉱同士の野球大会などもあっていました。もちろん、映画館とか芝居小屋がたつなどして、現在の吉井の街の様子からは想像も出来

ないような毎日でした。今となつては、懐かしい思い出です。

吉田さん（70代・男性）

昭和38年頃、御橋、矢岳、高島鉱業所の炭坑で掘進夫として働いていました。もうその頃になると話題は「炭坑がいつまで続くだろうか」ということばかりでした。だから、当然「賃金は十分もらって稼いでおかん」と後々が心配」というような話しを中心になってきていました。だから節約せんといかんなんていうわけじゃあなかとですけども、仕事に行ったり、遊びにいたりするのに「歩いて行く」という時がほとんどでした。

まあ、吉井の街にはずいぶん多くの人が生活していて、にぎやかなもんでした。特に夏祭りなんかは活気がありましたね。後の細かなことはよく記憶していませんけど…。

\*『ふるさとの歴史 吉井町』によると、「話し」に出てくる当時の人口は、1950（昭25）年1万8800人（2192戸）、1955（昭30）年1万1992人（2425戸）、人口のピークは1959（昭34）年の1万3542人（2884戸）で、徐々に減少が続き、やがて合併前頃には5000人台が続く。



潜竜炭坑労働組合のメーデー＝1956（昭和31）年5月1日